



〈雑録〉英國商政史ノ一節(4)

車谷，馬太郎

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 8(5):839-852

(Issue Date)

1910-05

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051564>



英國商政史ノ一節 (其四)

商學士 車谷馬太郎

第四章 千八百四十一年

ウ井ツグ内閣ハ滑尺率ヲ廢シテ小麥一クオターニ付八志ノ定率稅ヲ課センコトヲ提議セリ。ウ井ツグ内閣ノ豫算案一砂糖輸入稅ニ關スル攻擊—議會ノ解散—新議會—リチアー、コブデン、—否穀物條例同盟會ノ行動、

一月二十六日女王ハ議會ヲ開キ給ヘリ。四月三十日ニ於テロード、ジョン、ラッセルハ『穀物取引ニ關スル法例ヲ調査スル爲メ全院ノ調査委員ヲ決定スベシ』テフ動議ヲ提出スベキコトヲ宣言セリ。此突然ナル宣言ハ一時議員等ヲ驚カシタルモ、尙ホ一般ニ熱心ナル歡迎ヲ受ケタリ元ヨリ其歡迎シタル理由ハ各自皆異レルヲ注意セザル可カラズ。保守黨ハ之ヲ以テ自由貿易論者ノ弱點ヲ表現スルモノナリト思ヒ、内閣側ニ於テハ之レニヨリテ人望ノ恢復ヲセラルベキヲ

豫期シ、而シテ自由貿易論者ハ之ヲ以テ彼等要求ノ一部分容レラレ、且ツ讓歩ノ行ハレタルモノト考ヘタリ。然リ、然レドモ如此コトハ屢々ウキリヤース氏ニヨリテ繰返シテ提議セラレ同時ニ大多數ヲ以テ否決セラレタル所今更敢テ珍奇ヲ誇ル可キモノナラズ、而モ昨ハ否定セラレ今ハ歡迎セラル、是レ最モ能ク事態ノ變遷、時勢ノ推移ヲ語ルモノナリ。抑モ此變化ハ否穀物條例ノ同盟會ノ論議ニヨリテ動カサレタルモノカ、將タ内閣ガ單ニ輿望ヲ繋ギ其命脈ヲ維持スルノ目的ニ過ギザリシヤ。恐クハ此二ノ原因ハ相混ジテ彼等ノ意ヲ動カシタルナラン。

五月五日ロード、ジョン、ラッセルハ『穀物取引ニ關スル法例』ニ修正ヲ加ヘンコトヲ述ベタリ。即チ從來ノ滑尺率ヲ廢シテ小麥ハ一クオターニ付八志、大麥ハ四志六片、燕麥ハ三志四片ノ定率稅ヲ以テセント謂フニ在リ、之レニ關シ形式ノ備リタル動議ヲナシタルハ其月ノ終リナ

リキ。之ヲ早ク發表シタルハ豫メ輿論ノ贊同ヲ博シ置ク可キ所存ナリシハ疑フベカラズト雖モ此案ニ對スル贊成者ハ極メテ少カリキ。多クハ之ヲ否トシ或ハ耳ヲ傾ケザリキ。保守黨ハ之ヲ以テ農民ノ權利ヲ損害スルモノトシテ黜ケ、自由貿易黨ハ法例撤廢ノ外ハ何事ヲモ満足セズトシテ贊成セザリキ。ウキッグ一派ニ心ヲ寄スル者サヘ尙ホ反對スルニ躊躇セザリキ、實ニ此案ハ穀物ノ如ク其價格ノ變動著シキモノニハ適用シ難キモノナリ。何トナレバ一クオターニ付八

志ハ一クオター八〇志ノ時一割ニ相當スベケンモ四〇志ニ降ル時ハ二割ヲ示スモノニシテ而モ當時ノ英國ニ於テハ此ノ如キ變動ハ珍トスルニ足ラザレバナリ。故ニ英國民ガ小麥ノ價七〇—八〇志ノ時ニ於テ此稅ヲ容ル、ト想像スルハ頗ル無謀ナリト謂ハザル可カラズ、然リ而シテ單ニ國庫ノ歲入ノ方面ヨリ考ルモ英國ノ小麥廉且ツ大量ニアルトキハ極メテ覺束無キ財源タルベ

ク恐クハ輸入ナク、從テ收入モ之レ無カルベシ而モ小麥ノ價一朝騰貴シテ輸入増加スルニ於テハ、國庫收入ノ増大ハ之レアルベシト雖モ肝心ナル場合ニ於テ國民ハ重キ稅ノ負擔ヲ爲サル可カラザルベク、斯クテハ國民ノ到底堪ヘ得ザル所ナルベシ。

カ、ル間ニ政府ハ千八百四十一年ノ豫算案ヲ提出シタリ、而シテ是レハ自由貿易主義ニ向テ漸次歩ヲ進メタルヲ示セルガ故ニ注意ヲ喚起スルコトモ尠カラザリキ。其不足額ハ二百萬磅ヲ表シタリ。

内閣員ハ此不足ヲ補フ爲メニ新稅ヲ起スコトナク、稅ヲ課シタルガ爲メニ其消費額ヲ減少スベキ稅ヲ輕減シ、一方ニハ公衆ノ利ヲ圖ルト共ニ他方ニハ國庫ノ充實ヲ來スベキ巧妙ノ方法ヲ採用センコトヲ言明シタリ。大藏大臣バーリング氏ハ主張シテ曰ク『予ハ國民ノ負擔ヲ増サズシテ、必要ナル支出ヲ得ント欲スルモノナリ。』

現今ニ於ケル殖民地材木ニ對スル輸入税ハ一荷
ニ付一〇志ニシテ、バルチック材木ハ五五志ナ
リ、乍併予ハ此兩者ヲ斟酌シテ殖民地材木ヲ二
〇志トシバルチック材木ヲ五〇志ニセント欲ス
ルモノナリ、此變更ニヨリテ六〇萬磅ノ歲入ノ
増加ヲ豫想スルコトヲ得可シ。又砂糖ニ關シテ
モ殖民地ヨリ來ルモノニハ一ハンドレツドウエ
イトニ付二十四志、外國ヨリ來ルモノニ就テハ
六十三志ノ税ヲ課シ居レリ、而シテ外國ヨリ來
ルモノニ就テハ是レヲ三十六志ニ減ゼントス、
然ラバ此變更ニヨリテ歲入ハ七十萬磅ヲ増加ス
ルコトヲ得可シ』ト同氏ハ更ニ語ヲ進メテ曰ク
『以上ノ收入ヲ以テスルモ尙ホ不足ヲ生ズルガ
故ニ此殘リタル不足額ハ後ニ提出セラルベキ穀
物法ノ變更ニヨリテ之レヲ外國穀物ヨリ補ハン
コトヲ希望ス』ト、

此豫算ハ至ル處ニハ釜敷論ゼラレタリ、乍併
是レ個人の利益ヲ棄テ、國民ノ公益ヲ尊重スル

主義ガ施政ノ上ニ認識セラレタル抑モノ初メナ
リ。サレバ加奈陀ニ於ケル材木商人、東印度ノ
砂糖栽培者、及其地主等ハ彼等ノ獨專權ヲ奪ハ
レタルノ故ヲ以テ憤怒極點ニ達シタリ、彼等ノ
呼號シ宣言シ辯駁シタル論鋒ハ恰モ今日全世界
ノ保護論者ガ言フ所ニ髣髴タルモ亦奇ナラズヤ
彼等曰ク『材木、砂糖、土地ノ利益等ハ極メテ著
シキモノナリ。何故ニ民人ヲシテ其儘ニ放任セ
ザルヤ科學研究者ト稱スルモノハ由來進々止マ
ザル吾等ニハ用無キモノ却テ吾等ヲ攪亂スルノ
ミ。今日ノ英國ハ全體トシテ多々益々繁榮ノ途
ニ向ヘリ。未來ノ不確實ナル安寧ノ爲メニ現在
ノ幸福ヲ奪ヒ去ル抑モ何ガ故ゾヤ。是レ病的思
想ノミ。猶且ツ英國人ガ加奈陀ノ材木、東印度
ノ砂糖、内國ノ製造品ヲ消費セズシテ外國ノ勞
働者ノ手ニナリタル生産物ニ其金錢ヲ支拂ハシ
ムルハ之レ明ニ英國人ヲ舉ゲテ犬タラシムルモ
ノナリ。英國人ガ英國人ニ支拂フモノニ何ノ高

價カアルベキ、餘剩ノ金錢ハ之レヲ注ギテ加奈陀ト内國ノ産業ヲ維持スレバ即チ足レリ。豈是レ與ヘテ而シテ取ル者ナラズヤ。材木、砂糖、土地ノ利益ヲ保護セバ是レ總テヲ保護シタルモノナリ、即チ陶器商モ船舶所有者モ綿製造業者モ亦等シク保護ヲ受クル者ナリ、而シテ各人ハ全體ヨリ利益ヲ得ルモノトスレバ其各人ニ對スル事ハ全體ニヨリテ決セラレザル可カラズ、勞働者ニ就テ謂フモ然リ、物價高キハ彼等ノ利益ナリ何トナレバークオターロンノ麵麩十八片ノ時ハ其勞銀ハ麵麩ガ六片ノ時ヨリ高カラザル可カラザレバナリ。云々『然レドモ英國ハ幸ニシテ斯ル論理ニ心ヲ奪ハル、者無ク從テ何等ノ影響モアラザリキ。彼等ノ詭辯ハ却テ重ナル政治家ヲシテ其實行ヲ急ガセタルノミ。保守黨ガ豫算案ニ對スル反對ハ内閣ヲ仆ス程度ニ至ラザリキ。戰場トシテハ彼等ハ寧ロ砂糖輸入税ノ問題ヲ選ミタルモノナリ、故ニロード、サンドンハ次

ノ如キ動議ヲ出シタリ。『議會ト國民ハ曩日奴隸取引及奴隸制度ヲ廢止シタル時ニ於ケル（此時ハ議會ハ豫メ此問題ニ關シ準備セザリキ）盡力ト犠牲ヲ外國砂糖ニ課スベキ税ヲ輕減セントスル政府ノ方案ヲ議スル爲メニ客マズ』此動議ニ關スル討論八夜ニ涉リ五月十八日ニ終リ三十一ニ對スル二百八十一票ニシテ否決セラレタリ。此時ニ於ケルサー、ロバート、ピールハ有力ナル演說ヲ試ミ、砂糖税ニ對シテモ穀物ノ定率税ニ對シテモ反對ヲナシタリ。乍併氏ノ論調ハ稍ヤ保護說ニ傾キタル所ナキニアラズ、即チ氏ノ演說ノ結ニ曰フ『此方策夫自身ハ決シテ有害ナルモノニアラズ。唯恐ル、之レガ政府自身ノ眞意ヨリ出デタルモノニアラズシテ政府ヲ維持スル特殊政黨ノ歡心ヲ求メ以テ將ニ傾倒セントスル内閣ヲ支フルノ方便ニ過ギザルコト公ケトナラハ公衆ニ對スル政府ノ威嚴ハ到底保ツコト難キヲ』ト

彼ハ政府ノ方案ニ反對スルヨリハ寧ロ政府夫
自ラニ反對スル旨ヲ明言シ得ザリシナリ。政府
ニ反對ノ箭ヲ放テバ彼等ハ必ズ辭職スベシトハ
一般ニ豫期セラレタル所ナリシガ政府ハ此處ニ
出デズシテ六月四日穀物條例ニ關シテ一動議ヲ
提出スベキ旨ヲ通告シタリサー、ロバート、ビ
ールハ政府ガ議會ヲ解散シテ否穀物條例ヲ以テ
一國ニ訴フルコトヲ爲サシムルガ如キ無手腕ノ
者ニアラズ、氏ハ五月二十七日ニ於テ内閣不信
任ノ動議ヲ提出シタリ、是レ實ニ一票ニ對スル
三百十一票ヲ以テ滿場一致ノ可決ヲナセリ、於
茲乎政府ハ總辭職ヲナスカ又ハ解散ヲ命ズルカ
其一ヲ選バザル可カラズ而シテ政府ハ後者ヲ選
ビ六月二十二日停會ヲ命ジ翌日解散ヲ命ジタリ
來ル可キ選舉ニ於テ自由貿易黨ガ採ル可キ途
ハ唯一也、王黨モウキッグ派モ共ニ讓步ヲ望ミ
得可カラズ、彼等ノ依頼スベキハ唯自ラ活動力
アルノミ、於茲乎マンチエスター、リバプール

其他ノ都會ニ於テハ該運動ニ關スル集會頻リニ
行ハレ、各地ノ派遣委員此處ニ集マリ、コブデ
ンハ常ニ主宰者トナリテ事ニ當リタリ、其間幾
多ノ難關幾多ノ障礙ハ彼等ヲ遮リタレドモ皆克
ク之レヲ打破シ逃避セリキ。例ノチアーチスト
ハ有意識又ハ無意識ニ王黨ト中原ノ鹿ヲ爭ヒ又
アラユル手段ヲ盡シテ是等ノ集會ヲ妨害シタル
モ皆徒勞ニ歸シタリキ。反之自由貿易黨ノ聲ニ
應ズルモノ甚ダ多ク、定率稅モ滑車率モ共ニ不
可ナリ、國民ノ食物ノ上ニ課セラル、稅ハ宜シ
ク之レヲ全廢スルニ如カズトハ工業地方ニ於テ
異口同音ニ號呼セラレタリ。

然レドモ選舉ノ結果ハロバート、ビール及其
一派多數ヲ占メタリ。而シテウキッグノ施政ニ
對スル反動ハ愈増長シ疑フ可カラザルニ至リヌ
然レドモ之レ驚ク可キコトナラズ、議會ニ於ケ
ル其維持ハ漸次減少シテ寥々曉ノ星ノ如クナリ
タルヲ見バ首肯シ得ベキナリ。郵便制度ノ改革

及其他同性質ノ改良ニ關スル功蹟ノ如キモ寧ロ其永キ内閣ノ施政期ニ比スレバ一小結果ナリトセラレタリキ。穀物條例ニ關スル曖昧ナル態度ト逡巡セル其行動ハ遂ニ其味方ニモ疎ゼラル、ニ至レリ、況シテ自由貿易黨オヤ。一國ノ狀態ハ今ヤ荒涼、其財政ハ甚シク紊レタリ、サレバ此時ニ於ケルサー、ロバート、ピールガ施政ト財政ニ關スル大技倆ハ旱天ニ雲霓ノ如カリキ。

八月十九日ニ於テ新議會ハ開カレタリ。女王ノ演說トシテ此頻死ノ内閣ニヨリテ紹介セラレタルモノ、中左ノ如キ一節アリ即チ『此等ノ外國品ニ對スル輸入税ハ果シテ歲入ニ影響セザルガ如キ小額ノモノナリヤ否ヤ又此税ガ果シテ商業ニ大ル妨害ヲ與フベキモノナリヤ否ヤ審査セザルベカラズ、尙ホ且ツ此等ノ税ヲ課スベキ基礎タル保護ノ原則ハ果シテ國家ノ收入ト國民ニ害ヲ來スベキモノナルヤ否ヤ之レヲ吟味セザル可カラズ、陛下ハ希望ス、諸氏ハ穀物取引ヲ支配

スル法例ヲ詳ニ研究センコトヲ。此法例ガ供給ノ自然ノ變化ヲ害スルモノナリヤ否ヤ亦之レニヨリテ國民ノ幸福ヲ傷クルト同時ニ其困難ヲ増加スルモノナリヤ、之レヲ決定スルハ諸氏ノ義務ナリ』ト上院ニ於テハエール、オブ、リボンハ此演說ニ對シ修正ヲ發議シ七十二票ノ多數ヲ以テ可決シ同時ニ下院ニ於テモ同ジ修正ガステュアート、ウォルトレーニヨリテ發議セラレ四夜ニ續キタル討論ノ末是レモ九十一票ノ多數ヲ以テ可決セラレタリ此討論ハストックポールトヨリ選出セラレタル新議員コブデンノ議會ニ於ケル初陣トシテ有名ナリ。

抑モコブデンハサッセッキス一郷士ノ子ニシテ五百磅ノ借入資本ヲ以テ其業ヲ始メタル、カリコ形付商人ナリキ、(紺屋ノ如キモノ)、氏ノ政治的生涯ヲ通ジテ其武器トスル處ハ小冊子ト演說ノミ、而モ『自由貿易、平和、國際間ノ和親』ノ遵奉者トシテ其名實ニ英國内ニ止マラズ

廣ク海外ニ響ケリ、氏ハ稍ヤ謙讓ヲ缺ギタルガ如クナルモ是レ彼ノ義務ヲ遂行スルニ熱心ナル大膽何物ヲモ恐レザルヨリ然カ見ユルモノニシテ個人トシテ彼ヲ見レバ溫順、同情ニ富ミ、暴言、皮肉ハ彼ノ好マザリシ所、唯不正ヲ責ムルニ當リテハ一步モ假借スル所ナカリキ、氏ノ辯

ハ之ヲ修辭上ヨリ謂ヘバ決シテ雄辯ト稱ス可カラズ然レドモ氏ハ常ニ主題ヲ離レズ理論ト事實ヲ操縱スルノ自由ナル神アルガ如シ、其言葉ハ寧ロ簡明透徹ニ過ギタリ、其論理ハ直裁針ノ如ク詭辯ヲ說破スルニ妙ヲ得タリ、故ニ氏ノ演說ハ直チニ人ノ心胸ニ迫リ感情ニ訴フルニ似タリ時ニハ婉轉流麗春花亂咲クノ概アルコトモアレドモ其調弱ク、怯懦ナルコトアラズ、常ニ要點ヲ捉ヘテ一ノ冗言ナシ、氏ハ聲調ノ緩急ヲ以テ演說ヲ飾ルコト少シ、ト雖モ其說キ去リ說キ來リテ興乗ズルトキ聽衆ノ之レニ反對又ハ同情スルノ聲ニヨリテインスピレーシヨン神來シ警句

ヲ吐キテ賞賛ヲ博スコトモ之レ無キニ非ズ、要スルニ氏ノ演說ハ其言葉ノ如ク明坦素樸ニシテ修飾スル所無シ、氏ノ人物及思想モ亦其演說ノ如シ、彼レ屢々狂熱家トシテ攻撃セラレタルモ彼レニ反對スル最モ激烈ナルモノモ未ダ嘗テ無用ノ重辯ヲ弄スルモノト云ヒタルハ非ズ。

私の交際ニ於テハ彼レ極メテ溫平、驕傲ナラズシテ同情溢ル、ガ如シ、識ルト諷ラザルトヲ問ハズ彼レニ近キタルモノハ彼レニ引付ケラレ其影響ヲ受ケルコト一種ノ磁石ニ對スルガ如シ彼レハ高キト低キトヲ問ハズ均シク敬虔ノ態度ヲ以テ之レニ臨ミ遇スルニ禮ヲ以テス其義俠心ハ如何ナル人ニテモ窮スル者アレバ往テ之ヲ救ベリ、其人ヲ救フヤ恰モ彼自ラヲ救フガ如クス、否ナ、却テ自レ以上ニ盡力セリ、而シテ人ト共ニ事ヲ爲シ勝利ヲ得功ヲ收メタルトキハ却テ、公等録々者ノ席ニ隱レテ其功ヲ誇ラズ、其困難ノ時ニ際シテハ急先鋒トナリ、常ニ陣頭ノ陳吳

ニ擬ス其人ト爲リ見ル可キ耳。

彼ノ趣味、習慣ハ悉ク英國的ナリ、然レドモ彼ノ信條ハ然ラズ、眼中他人無ク國境無シ、英國ノ利益トナルベキモノハ亦凡テノ人類ノ利益ナリト信ジタリ。一國ノ繁榮ハ他國ノ繁榮ト兩立セズトハ彼ノ最モ嫌忌シ且ツ攻撃シタル所ナリ彼レハ眞ニ信ゼリ、一國ノ繁榮ハ即チ亦他國ノ繁榮ヲ誘フモノナリト、サー、ルイ、マレ氏ハコブデンノ政治論集ノ緒言ニ於テ曰ク『コブデンハ國際間ニ於テモ個人間ニ於テモ其利益ハ決シテ互ニ衝突スルモノニ非ズト信ジタリ』ト、國ト國トノ別ノ如キ是レ人爲の境界ニ過ギズトシ又彼レガ屢々歐洲大陸ヲ旅行シタル時ハ此見解ヲ實際ニ行ヒタリ、是レモ彼ノ名ガ普ネキ一因タルベシ。

コブデンノ精力愈絶大トナリ其生涯ノ高潮ニ達シタル時彼ハ忽焉トシテ逝ケリ、世界至ル所哀悼セザルハアラズ。佛國公使。ドルイヨン、

ドルーイハ彼ヲ稱シテ『國際的人物』ト評セリ寔ニ然リコブデンノ勢力、影響ハ徹頭徹尾其人格ニ在リ。何トナレバ彼レハ助ケラレ可キ地位ヲ有セザレバナリ、而シテ其勢力ト影響ガ遙ニ之レヲ有スル者ニ比シテ絶大廣汎ナリシハ驚クベキナリ。然レドモ彼レハ勢力ヲ濫用スルノニアラズ、其ガ正當ニシテ神聖ナリト信ズルニ非レバ之レヲ用ヒズ、ゲニブラターチノ能筆モコブデンニ勝ル人格ヲ寫シ出サンコト、其難キ所トセシナルベシ。

八月三十日女王ハ其陳述ノ修正案ニ答ヘ給ハシガ爲メニ下院ニ於テ演説ヲナシ給ヘリ、其中ニハ次ノ如キコトヲ述べ給ヘリ。曰ク『予ハ議會ノ注告ヲ聽キ新施政ヲ構成スル方略ヲ採ルベシ』トウキッグニ代リタルハ言フ迄モナクローバートピールニシテ閣員ノ著シキモノハデューク、オブ、ウエリントン、ロード、スタンレー及サー、ジェームス、グラハム等ナリ。世人ハ思ヘリ、

自由ナル商業政策ハ到底此内閣ニ期待ス可カラズト。然レドモサ―、ロバート、ピールハ各所ニ於テ現行穀物條例ノ内容ヲ補正スベキヲ快諾セリ。彼レハ内閣ヲ引受クルニ際シ演說シテ次ノ如キコトヲ云ヘリ、『若シ現行穀物條例ヲ其儘ニ維持セザル可カラズトスルカ又ハ農民ノ利益ヲ保護スベキ條件ニテ内閣ヲ引受クルモノトスレバ吾人ハ之ヲ辭退セザルベカラズ。一國ノ政ヲ施行スルニ於テハ當ニ其信ズル所ニ從テセザル可カラズ、ヨシソガ不完全ニシテ又誤謬ニ陷リタルモノアルニセヨ、其所信ヲ斷行スルハ公ノ義務ヲ全ウスル所以ナレバナリ。故ニ予ノ意見ヲ維持スルコト能ハザランカ、予ハ施政ノ權ヲ有スルヲ希ハズ』ト此堂々タル數言ハ後來彼ガ爲セシ所ヲ能ク言ヒ表ハシタルモノナリ、尙且ツロバート、ピール現開期ニ於テ一定ノ方策ヲ提出セザルコトヲ宣言シ常例ニヨリ議會ハ十月二十日停會セラレタリ。

今翻テ當時ノ狀態ヲ見ルニ甚ダ寒心ニ堪ヘザルモノアリキ、即チ凶作、商業ノ沈滞、財政恐慌一時ニ襲來シ、不景氣ノ聲ハ國中ニ滿テリ。而シテ其最モ甚カリシハ工業地方ナリキ。此時ニ於ケル慘憺タル有様ハ戰慄ヲ覺エシム、リ―ズニ於テハ平均一週間ニ一志ヲ得ルコト能ハザルモノ二萬九百三十六人ニ達シノツテイングハムニ於テハ敎區ノ救助ヲ受クルモノ一萬五百八十人殆ンド全市ノ五分ノ一ニ達シ又バーミングハムニ於ケル重ナル業務ニ従事スル勞働者ノ所得ハ半減シ又ハ三分ノ一ニ減ジ雇主ノ側ニ於テハ勞働者ノ給料支拂日ニハ其商品ヲ質入シ以テ支拂ニ充ツルガ如キ狀態ニ陥リタリト云フ。ペイスレーニ於テハ二箇月ノ中ニ倒産シタルモノ三十有餘舗ニ及ビ賃銀ニヨリテ生活ヲナス者ノ三分ノ一ハ公ノ救助ヲ受ケザル可カラザルニ至リタリ。マンチエスターニ於テハ一萬二千ノ家族ハ其家具衣類ヲ質入盡クシテ遂ニ如何トモス

ル能ハズ、慈善家ノ寄與ニヨリテ僅ニ其日ヲ送
リタリ、又コベントリー人口ノ三分ノ一ハ業ヲ
失ヒ空シク拱手スルノミ、スピタルフイールド
ニ於テハ八千ノ機械器械ハ其運轉ヲ停止シ二千
四百ノ人ハ敎區ノ保護ノ許ニ趨レリ。首府ニ於
テモ千人ノ印刷職工及九千ノ織工ハ其職ヲ失ヒ
タリ、此ノ如ク數ヘ來レバ盡クル所アルヲ知ラ
ズ悲惨ノ狀夫レ極マレリ、吾人最早此ノ上ニ慘
事ヲ連ラスルニ堪ヘザルナリ。見ヨ！内國工業
ヲ保護スルコトハ、如上ノ如キ結果ヲ來シ内國
勞働者ヲシテ其職ニ離レシムルト同時ニ他方ニ
ハ人爲ニヨリテ彼等ノ生命ヲ繫グ可キ麵麩ノ價
ヲ高カラシムルヲ以テ國民ガ窮スル如此ナルコ
ト固ヨリ偶然ニアラザルナリ。(其當時外國穀物
ニ課スル税ハ滑尺率ニヨリ一クオターニ付二十
四志八片ナリキ)。

サレバ議會ニ停會ヲ命ジ之レニ關スル救濟ノ
方策ヲ次年ニ繰リ延ベタル新内閣ニ對スル憤怒

攻撃ノ聲囂シカリキ、然リト雖モ又一方ヨリ考
フレバサー、ロバート、ビール及其一派ガ向後ノ
施政方針ヲ定ムルニ豫メ協議シ考慮スルノ時ヲ
要求スルハ必ズシモ道理ナシト云フ可カラズ。

ロード、ジョン、ラツセルガ其延滞ヲ痛罵シタル
ニ應ヘタル言ハ寔ニヨク肯綮ニ當レリ。曰ク『卿
ニシテ若シ此商業ノ窮迫ガ穀物條例ニ胚胎スル
モノト思惟シ又勞働者ノ階級ノ困難ノ源泉此處
ニアリト認メラル、ナラバ何故ニ卿ガ内閣ニ坐
ヲ占メタル當時數年間ニ於テ是ガ救濟ニ指ヲ染
メザリシヤ、知リテ而シテ行ハザル豈是レ義務
ヲ忽ニシタルモノナラズヤ』ト

内閣更迭ガ國民否穀物條例同盟會ニ及ボシタ
ル影響ハ唯益々同盟會ヲ刺激シテ其活動ヲ激烈
ナラシメタルノミ。新内閣成立ト千八百四十二
年ノ會期トノ間ノ數ヶ月ニ於テハ其活動殆ンド
絶ヘ間ナク行ハレ、同盟會ノ指揮ハ無數ノ集會
ニ臨ミテ無數ノ演說ヲナシタリ、彼等ハ出來得

ル限リ各地ヲ遍歴シテ其主張ヲ講演セリ。又其印刷物ハ百萬ニ上リ王國中、如何ナル寒村僻地ト雖モ之レガ配布ヲ見ザルノ所アラズ。今該同盟會ガ輿論ヲ導クニ如何ニ熱心ナルカヲ例セシメヨ。八月十七日マンチエンター市會堂ニ全國各種ノ牧師招集セラレタリ、此時集マレル牧師ハ七百人ニシテ皆一週間滞在シタリキ。於茲乎該同盟會ノ委員等ハ彼等ヲ優待シ、宗教上ニ於ケル決議四日ニシテ濟ミケレバコブデン、トムソン其他ノ辯士ハ彼等ニ演說ヲ試ミタリ、又十一月十七日ニ於テハ百二十ノ派遣委員王國ノ各所ヨリ集マリマンチエンスターニ會合セリ。而シテ次ノ如キ意味ノ議決ヲナシタリ。即チ『總テノ現否穀物條例會ハ直ニ請願書ヲ提出スルコト。而シテ請願書ハ成ル可ク議會開始以前ニ既成スベキコト、』是レナリ。如斯ビヅネッスライキ注意周到ハ同盟會ガ效ヲ奏スルニ與テ力アリタルモノナリ。

此重要ナル政治的、社會的目的ヲ進行セシムル爲メニハ單ニ盡力ヲ男性ノミニ限ラズ廣ク女性ノ中ニモ運動ヲ試ミタリ。ランカツシヤイヤノ婦人ノ如キ此運動ニ加ハリテ力ヲ添ヘタルモノ尠カラズ。時ニハ婦人等ハ茶談會ヲ催シ該運動ノ指導者ヲ聘シテ一場ノ講話ヲ請ヒタルコトモアリ、斯ル時ハ大抵ジョージ、トムソン氏之ニ當リ其情ニ富メル音調ト刺スガ如キ句調ハ能ク聽衆婦人ヲシテ感嘆セシメタリ。此種ノ集會ニハ大仕掛ノ陳列所(商品)ヲ設備シ之レヲ賣リ以テ同盟會ノ運動資ヲ助クルニ至リタリ。此設備ニ關シテハ婦人等委員ニ當リ以テ諸計畫ニ與リタリ、而シテ之レガ漸次發達シ、ソガ國民的ナルコトヲ標榜センガ爲メ全國ニ其賣品ノ出品ヲ求メタリシニ其大多數ハ快諾ヲ與ヘタリ。之等ハ皆婦人ガ委員トシテ働キタルモノニシテ其總長ハコブデン夫人之レニ推サレ、千八百四十二年早春マンチエンスター、ローヤル座ニ於テ

執行シ大ナル成功ヲ收メタリ。其開期僅ニ十日間ナリシガ其贏チ得タル所實ニ九千磅ニシテ爲メニ同盟會ハ少カラザル資金ヲ得タリ。

第五章 結 論

以上章ヲ重テ自由貿易運動ノ起源及之レガ運動ノ經過ノ一端ヲ述ベタリ。然レドモ吾人ハ徹頭徹尾此歴史ヲ細叙セント欲スルモノニアラズ。唯讀者ニシテ其運動ノ規模ガ如何ニ偉大ニシテ且朝野ノ士ガ其政策ニ對シテ如何ニ熱心ナルカヲ追想セラレンカ、吾人之レヲ以テ足レリトナスナリ。過般我邦ニ於テ穀物關稅ノ問題起リシヤ、我政治家竝ニ國民ノ之レニ對スル態度ハ如何ナリシ。元ヨリ經濟學者及二三ノ政治家ハ討論會ヲ催シテ論戰勉メタルモノナキニ非ズト雖モ其熱心ノ度ハ之レヲ自由貿易運動當時ノ英國ニ比スレバ寔ニ慊焉タラザルモノナキニ非ズ。當時ノ英國ト今日ノ日本トハ事情元ヨリ異ル所アルヲ以テ必ズシモ今日ノ我國民ニ望ムニ

非穀物條例會コブデン乃至ロバート、ビールヲ以テスルコト能ハズト雖モ冷々淡淡々、對岸ノ火事ノ如キ其態度ハ我邦ヲシテ克ク極東ノ英國タラシムル所以ニ非ズ。千八百四十六年(此年自由貿易黨勝利ヲ得、非穀物條例會ハ解散シタリ)ロバート、ビールガ演說中ノ一句ヲ聽カバ如何ニ彼レガ名譽ト地位トヲ抛テ其主義ノ爲メニ戰ヒタルカヲ知ルベシ其一句トハ即チ次ノ如シ『吾輩ハ自己ノ權威ヲ擅ニセンガ爲メニ此商業政策ヲ主張スルモノニアラズ其目的トスル所ハ一ツニ國家ノ利益ヲ増進スルニアリ、何トナレバ吾人ガ組織スル内閣ハ此方策ノ成效スルト否トニ拘ラズ其存在ヲ失フ可ケレバナリ。然リ而シテ吾人ハ是レヲ以テ決シテ恨事トナスモノニアラズ今吾輩ハ此政策ノ成效ト離ス可カラザル姓名ヲ諸君ニ紹介セントス、同君ハ全ク自己ノ利益ヲ度外視シテ此ノ政策ノ爲メニ盡瘁セラレタルモノニシテ其撓ザル精力ト道理ト雄辯ト

ハ此政策ヲ助クルニ大ニ力アリタルモノナリ、其名トハリチードコブデン氏即チ是レナリ」ト

彼レハ權力ヲ抛テ其主義ノ爲メニ盡シ而モ己レヲ顯ハサズ。君子ト謂ハザル可カラズ。而シテ我關稅問題ノ起ルニ際シテハ未ダピールノ如キモノアルヲ見ズ。然ラバ我國ハ英國人ニ比シテ其政策ヲ思フノ念、大ニ劣ルモノアル乎。當時ノ英國ハ歐大陸諸國ニ先ンジ早ク國民經濟ノ完成ヲ遂ゲタルヲ以テ其メルカンチルシステムノ餘弊ヲ蒙ムルコト極メテ甚シカリキ。而モ當時ハ既ニ大經濟學者アダム、スミスノ著大ニ行ハレ心アルモノハ其說ニ聽キ英國ニ於ケル思想ハ一般ニ自由貿易ノ空氣ニ包マレタリ。サレハ斯ル保守好ノ國民タルニモ拘ラズ自由貿易主義滔々トシテ一國ノ風ヲナセリキ。翻テ我國ヲ見ルニ等シク國民經濟ノ域ニ入り來リタリト雖モ周圍既ニ先ジテ國民經濟ヲ完成シタル後ニシテ英國ノ自由貿易主義モ之レヲ悉ク施ス可カラザ

ルノ時勢トナレリ。然ルヲ以テ當時ノ英國ト今日ノ日本トハ此貿易主義ニ關スル態度及熱心ノ差ハ自然生ジ來ル可キモノナリ。我國民豈ニ元來國事ニ不熱心ナルモノナランヤ。

然レドモ其不熱心ナルガ如ク見ユルハ唯以上ノ理由ニ止マラズシテ蓋シ他ニ求ム可キモノアリト信ズ。ソハ一般ニ係ル經濟政策ノ智識ノ缺乏是レナリ。商工業者等全般トハ言ヒ難ケレドモ其大部分ハ穀物稅ヲ課スルコトガ果シテ利益トナルヤ害トナルヤハ克ク辨ゼザル所、隨テ是レガ問題ニ對スル態度モ冷淡トナル寔ニ止ムヲ得ザル所也。要之我が國民ノ政策ニ對スル熱心ノ足ラザルハ國民經濟生活ニ關スル智識ノ缺乏ニ因ル而シテ之レ教育普及ノ足ラザルニ歸セザル可カラズ。故ニ曰ク

政策ハ之レヲ掌ル人物ノ如何ニアリ、更ニ一步ヲ進ムレバ之レヲ施サル國民ノ如何ニアリ、而シテ國民ノ如何ハ其特性國狀ニ因ルト

雖モ先ヅ教育ノ如何ニ在リト云ハザル可カラ
ズ故ニ政策論ハ常ニ國家ノ利益論ニ始マリ教
育論ニ終ル可キモナリ。

予ヤ此一句ヲ以テ本編ノ結トナサント欲ス。

過般ノ穀物稅存廢ノ適否如何ニ就テハ其當時福
田博士既ニ的確ニ之レヲ論ジ盡シタレバ予ノ加
フ可キ所ナシ、博士ノ論ハ載セテ其著經濟學研
究(第四版)五百二十三頁以下ニアリ就テ讀マレ
ンコトヲ請フ。(其他ノ名士ノ論ハ經濟世界社出版菊地義
君編纂ノ輸入米稅存廢論ニ收メ在リ)

(完結)